

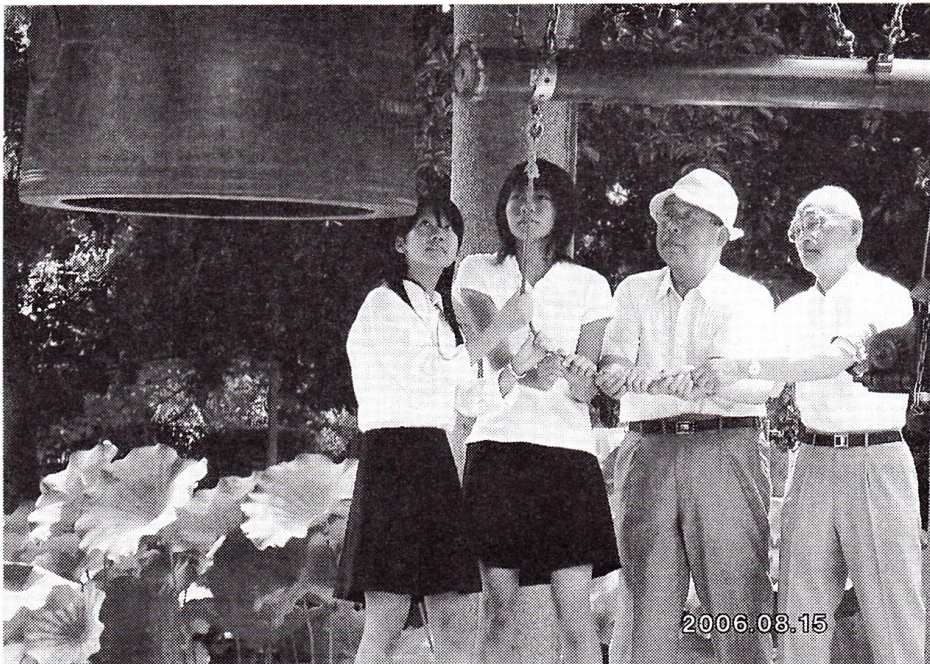
広島ユネスコ協会ホーム
ページをご覧ください
(<http://www.unesco.jp/hiroshima/>)
Eメールで情報提供を
(hiroshima@unesco.or.jp)

七年目の「平和の鐘」

高校生、外国の人も参加

二〇〇〇年から毎年、終戦記念日を中心に国内各地のユネスコ協会が取り組んでいる「平和の鐘」に、今年も広島ユネスコ

二〇〇〇年から毎年、終戦記念日を中心に国内各地のユネスコ協会が取り組んでいる「平和の鐘」に、今年も広島ユネスコ



光田悠里絵さん、松浦愛姫さん、北川会長、光田副会長が平和の鐘を力強く

参拝ニュースが駆け廻り、報道機関も「平和の鐘」行動に注目するところとなり在広新聞・テレビ各社が詰めかけた中で集いが始まりました。

まず、北川建次会長が靖国問題にも触れながら「平和の鐘」の趣旨を述べ、世界の紛争解決と世界平和の実現のための努力をアピール。続いて折り鶴の束を原爆の子の像に捧げに来日されたオーストラリア元軍人の男性がヒロシマに寄せる思いと平和への願いを述べ、次いで韓国・大邱ユネスコ協会と広島ユネスコ協会の間で交わされたメッセージが紹介されました。

集いには広島大付属高校ユネスコクラブ・二年生光田悠里絵さん、松浦愛姫さんも参加。正午からの黙禱に続く「平和の鐘」では会長と二人の高校生、そして光田さんの祖父・光田副会長の四人が撞き初めを行い、続いて平和公園を訪れた市民、観光客ら延べ百五十人が鐘を撞きました。その中にスペイン・バルセロナ市民、かつて駐日大使館員であったスリランカの男性も混じっていました。この日全国約六十のユネスコ協会が「平和の鐘」一斉行動に参加しました。(五ページに大邱ユ協徐千済会長のメッセージ紹介)

世界遺産保持の集いも

今年の「平和の鐘」には、ユネスコ世界遺産に関する集いが加わりました。「平和の鐘」参加者の集いの後、原爆ドームの緩衝地帯に建設中の四十五メートルの高層ビルを眺めながら原爆ドーム前広場へ移動。

集いでは、担当部長が建設中止要請行動の経過を報告し、「同じ世界遺産の独ケルン大聖堂が高層ビルで景観が損なわれ危機遺産に指定されている。原爆ドームも懸念される。核兵器の惨禍の証人を蔑ろにすることは核兵器への警戒を怠ることに繋がる」とし、世界遺産保持の支援を要請しました。

この二つの集いの模様はマス・メディアで報じられました。(常任理事・亀井章)



外国からのお客様もあいさつ

ヒロシマ継承の道を探る

6/10、平和シンポを開催

広島ユネスコ協会は、「ヒロシマの継承―明日への伝言」をテーマに、去る六月十日、広島平和記念資料館において平和シンポジウムを開催しました（広島平和文化センターと共催）。約五十人の参加者がパネラーの報告と提言に耳を傾け、ヒロシマの継承のあり方を共に考える時間を持ちました。出演は、コーディネーター／斉藤忠臣（広島平和文化センター理事長）、パネラー／畑口實（前広島市平和記念資料館長）、宮奥和司（職町中学校教諭）、野上由美子（ネバーアゲイン・キャンペーン会員）、松下英樹（広島大学附属高校一年、HPS国際ボランティア副理事長）の皆さん。それぞれの活動に基づく提言は、参加者に核兵器につながる今後



のヒロシマの継承のあり方を考えるうえで、貴重な示唆を与えるものとなりました。それぞれのパネラーの主要な発言要旨は次のとおり。

〔畑口實さん〕平和記念資料館長の時代に、外国でヒロシマを伝える事業などを進めてきたが、十分に伝わっていない、理解されていないという現状がある。そうした中で、アメリカの高校では、平和教育を進めるのに、多くの学校の先生がツアーを組んで広島に来てヒロシマを学んでいる。こうした地道な活動が、アメリカでも芽を出して来ると思っている。希望の光でもある。

国内でも修学旅行で広島を訪れる学校が減っている現実がある中で、中学生、高校生向けの広島・長崎講座のシステム化も必要であるし、また、学校の先生たちを広島・長崎に迎え入れて国をあげた平和教育の取り組みに力を入れるべきときが来ているのではないかと思う。

〔野上由美子さん〕単身でアメリカへ渡り、ホームステイをしながら受け入れてくれる学校、クラスへ行って広島のこと、日本文化のことを伝えるボランティア活動を実践してきた。自分の感触では、原爆はこんなことがあった、こんな醜い兵器だからいけない、ということをと

とえば、自分が会った被爆者の方のお話しを使って、背中が焼けただれていたあのときの少年がいまこんな生活をしているなどと、六十年前のできごとではなくて、今、自分とかかわりがあるのだと具体的に話すことによつてヒロシマが伝わる、という手応えを感じた。事実を知ってほしい、というスタンスが大切と思う。

〔宮奥和司さん〕佐々木貞子さんの母校であり、平和教育には力を入れている。しかしながら原爆投下日についての認知度は、我が中学校では五十%を切るのが現状。そして、学校教育の中ではじめて原爆や平和と出会うという生徒が七八%という現実がある。学校教育が担う役割は大きい。教員が、もっと幅広く平和を考え、柔軟性をもつて、たとえば、広島復興のために立ち上がった市民の姿なども伝えるなどバリエーションをもつて取り組む必要がある。十人いれば十の被爆体験がある。「ああ、また平和教育か」と思わせることなく、いろんな被爆者からいろんな被爆体験を聞き、色んなことに具体的な思いをめぐらすための教員の準備と知識がなければならぬ。また戦争だけでなく、暴力・人種問題などでもいねいに伝えることが必要である。

〔松下英樹さん〕今まで戦後六十年間は、被爆者の方であったり、年輩の方に平和ということとをリードしていただいた。被爆六十年目からは若者世代がリーダーシップを発揮する時代

だと思ふ。また、ヒロシマの継承は、継承のための継承ではなくて、継承して世界平和を実現するための継承でなくてはならない。

今平和という大きいキーワードがある中で、平和を達成するために何かがあるか。環境問題、人権問題にしても、人間による自然や人間に対する「イジメ」として捉えるなど、いろんな問題に対していろんな考え方で対処していかねばならない。最後は、人間の良心、良識が問われる。〔斉藤忠臣さん〕今日の共通のキーワードは平和教育の大切さ。総合的な学習の時間や教科の中だけでなく、生活の中にも平和を位置づけること、イジメや暴力などのない安心して過ごせる環境づくりが大切である。

二〇〇六年度 総会を開催

広島ユネスコ協会は、去る五月二十日、広島市まちづくり市民交流プラザにおいて二〇〇六年度総会を開催しました。

前年度事業については、特に大きな事業として八月三日から六日まで全国の高校生、韓国大邱広域市高校生、さらに留学生、関係者など十一カ国三百余名が参加して開催された全国高校ユネスコ研究大会の開催準備・支援、第三次韓国訪問団の派遣をはじめとする国際交流、ユネスコ活動奨励賞の応募地域

身近な平和の構築の大切さを確認したい。そのことがヒロシマのこころの世界化、普遍化につながる。そのためには、きちんとしたコミュニケーションが大切である。

また、戦後この方、世界や社会が抱えてきた問題、紛争は、核兵器に代表される「力」では何も解決できなかった。その問題を解決することのできない核を廃絶、訣別する―そういう考え方に立たねばならないことを語り合った。「人を救うのは人しかない」―大量破壊兵器や核兵器が人間を守るのではない。国家や国益を守ることで間接的に人を守るという安全保障でなくて、人のニーズや生活を守るという人間の安全保障の浸透がより重要ではないか。

の拡大、ユネスコサロンでは地区公民館と共催で試みた「出前形式」の成功、世界遺産厳島神社の米空軍艦載機の岩国移転と原爆ドームの緩衝地帯への高層ビル建築問題への要請運動、広報紙の内容充実、書き損じはがき回収運動、青年の自主活動など新たなものや地道な活動の成果が報告されました。

新年度は、引き続き世界遺産原爆ドームの保護・要請運動、平和シンポジウムの開催、ユネスコサロン出前第二弾、大邱訪問団の受け入れ、機関紙発行の強化、青少年活動の育成などの事業計画と予算案も承認されました。

第三次大邱協会訪問団来広

韓国UNESCO大邱協会の第三次訪問団徐千済大邱協会展長ご夫妻をはじめ五家族十一人が五月八日から十二日まで広島、宮島、山陰を訪問されました。訪問団は五月八日福岡国際港からバスで平和記念公園へ。平和文化センターで今回はじめて行うホームステイ先のホストファミリーと対面し、それぞれのお宅へ移動。

九日の昼までホストファミリーと日本の家庭料理や日本文化の一端に触れる生活をともにされました。その後、平和公園内・原爆ドーム

大邱協会との市民交流の輪広がる

古田公民館 藤井孝行

広島ユネスコ協会は大邱ユネスコ協会と姉妹提携の協定を結び、相互訪問をして親善を深めています。

今年、大邱ユネスコ協会会長(団長)徐千済さん以下十一名が五月八日(月)から十二日(金)までの五日間広島・松江・大山を

ム見学、市内散策・買い物。夕方からの歓迎レセプションは日韓協会をはじめ関係団体、特別参加の方々多数のご列席をいただき盛会でした。

十日は厳島神社見学後、藤井孝行常任理事のお取り計らいにより、これもはじめてのプログラムとして、広島市古田公民館の公民館運営委員長をはじめ女性会、活動グループ、地区内小学校長など有志多数のご協力・参加を得て心のこもった歓迎会が催され、古田小学校を訪問。地域のかたや児童の温かい歓迎を受けました。

訪問され、市民交流やホームステイ、原爆資料館・宮島の見学などを体験されました。

五月十日(水)に訪問団は朝、宮島を見学され、正午前、市民が韓国の国旗を振って、温かく出迎えている中、古田公民館を訪問されました。古田公民館は一九九四年に行われた広島アジア競技大会で韓国の選手役員を温かくもてなし、競技の応援を行い、大会を機会に韓国との交流が盛んに行われている地域です。

午後二時広島での日程を終え、山陰(玉造温泉・松江・大山)へ向かわれ、十二日米子空港から帰国されました。訪問団のみなさんは広島滞在中、心からの歓迎とおもてなしを受けたこと、ホームステイでの経験など忘れられないと感激一杯の様子でした。

この度の訪問団のホームステイを受けていただいた西区高須の定信さん、同庚午南の松浦さん、当協会の竹沢さん、亀井さん、柴田さん、また、歓迎の行事を実施いただいた古田公民館運営委員会、地区内団体グループ、小学校に対しまして厚くお礼申しあげます。

(事務局長・山本隆信)

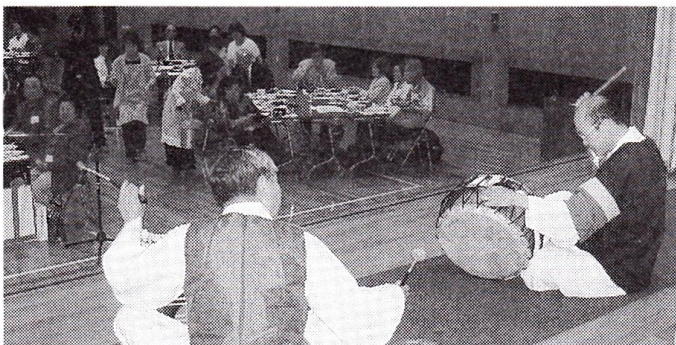
公民館では訪問団の歓迎会が行われ、地域の代表である古田公民館運営委員長 岡田一男さんの歓迎あいさつや、古田・山田・高須・古田台小学校の児童が描いた絵七十五点の贈呈、古江女性会が心をこめた手づくり日本料理の会食、公民館利用グループによる文化活動紹介がありました。文化紹介で韓国の曲目「故郷の春」を入れた筆の演奏では大邱ユネスコ協会の方々が口ずさんでいました。日本民踊には関心を持って鑑賞され、

最後に演奏された韓国の伝統楽器チャンゴ演奏に大きな拍手を送っていました。参加者約九十名は近くて近い日本と韓国の交流の輪の広がりに喜びを感じていました。

短かった約一時間の歓迎会の後、大邱ユネスコ協会の方々、公民館の近くにある古田小学校を訪問されました。

小学校の体育館に五年生、四クラス百六十名全員が拍手でお迎えいたしました。

五年生は総合学習の国際理解を深めていくためにこの度の訪問機会を活用して、大邱ユネスコ協会と一緒に授業を行いました。アライランの合唱や



古田公民館での文化交流



古田小学校での交歓

ハンガルの歓迎のあいさつ。また、児童は韓国についての質問など一生懸命に行っていました。大邱ユネスコ協会の方々には児童の韓国についての質問(辛いものが好きですか)「キムチはいつも食べますか」などにわかりやすく説明していただきました。また、古田の子どもが韓国についてよく勉強していることに驚かれ、温かい交流会の運営に感激されました。広島ユネスコ協会会員と地域の子どもや公民館で活動している市民と一緒に大邱との交流を深め、輪が広がったのは大きな成果でありました。

第9回広島ユネスコ活動奨励賞募集

広島ユネスコ協会結成25周年を記念して始まったユネスコ活動奨励賞募集は、本年度で第9回目を迎えました。

国際平和文化都市を標榜する広島市の国際的活動を支え、推進している土台は、広島市とその近郊における学校教育・社会教育及び民間活動により築かれているものです。

このユネスコ活動奨励賞の目的は、いままで学校や地域で取り組まれている国際理解、国際交流、国際協力などの分野の優れた活動を顕彰することによって、今後の活動の充実、発展をさらに促す契機となることを目指すものです。

現在、応募者を公募しています。募集概要は概ね次のとおりです。

▽活動内容／国際理解、国際交流、国際協力に関する継続的な活動

▽部門／学校部門＝広島市及びその近郊の小・中・高校
社会部門＝広島市及びその近郊の公民館などで活動するグループ・団体

▽応募方法／募集要項（請求により郵送。学校、公民館等は直接送付）の応募票に必要事項を記入し協会宛提出。

▽公募の期間／9月1日から10月31日まで

▽審査・発表・表彰／審査委員会を設置し審査し、12月中旬に発表。2006年1月中旬に表彰式を行い、賞状、楯を授与する。

× × × ×

対象地域／広島市および近郊＝従来の広島市・安芸郡から廿日市市、東広島市、呉市の一部まで広げています。

全国高校ユネスコ研究大会 沖縄大会に参加して

広島大学附属高校二年 光田悠里絵

去る八月二日～五日、私達広島大附属高校ユネスコ班八名、顧問の藤原先生、山陽女子園高校一年生二名、そして広島ユネスコ協会事務局長の山本さんで、第五十二回全国高校ユネスコ研究大会（沖縄大会）に行っていました。

真夏の那覇空港に到着すると、やはり「沖縄！」という感じで、日差しがとつてもまぶしかったです。まず平和祈念資料館で開会式が行われ、資料館を

見学しました。これまで広島で学んだ戦争とはちがう沖縄での地上戦は、軍人よりも一般住民の戦死者の方が、はるかに多かったそうです。あらためて戦争の恐ろしさを感じました。その後は糸満青年の家に到着し、全国から来た同じ部屋のメンバーと顔合わせをしました。

二、三日目は、各自が事前に希望していた分科会に分かれて、それぞれのテーマの学習をしました。バラエティーに富ん

だ六つの分科会で、朝から晩まで学習をしました。といても、先生の講演があつたり、高校生の発表を聞いたり、ビデオを見たり、グループに分かれて熱く討論したり……と退屈することもなく、新しい友達と充実した時間を過ごすことができました。また、三日目には分科会ごとに朝早くからフィールドワークに出発し、学んだ事を実際に体験したり、見学したりしました。ガマを見学したり、海岸の清掃活動をしたり、ウォークラリーをしたり……とそれぞれ濃い体験ができたと思います。その夜はキャンプファイヤーで大盛り上がり。沖縄の人

は本当に踊り好きでした。最終日は、朝それぞれの分科会ごとに個性的な成果発表があり、あつという間に閉会式をむかえました。みんな全国にたくさんの方の友達ができただけで、別れるのはすごく寂しかったです。この沖縄大会での出会いを大切に、学んだ事を広島でしっかりと広めていこうと思います。

ユネスコ運動全国大会参加報告

去る六月三日・四日、岩手県花巻市において、「考えていますか、となりのひとを」と平和と共生の明日に向かって」をテーマに、日本ユネスコ運動全国大会が開催されました。広島ユネスコ協会からは、北川会長、山本事務局長、井尾・亀井、古田各理事が参加いたしました。

花巻市は、「世界がぜんたい幸福にほらないうちには個人の幸福はあり得ない」と主張した宮沢賢治や、ユネスコの前身・国際協力の協力委員会の代表幹事をつとめた新渡戸稲造ゆかりの地でもあることから、全国からの参加者が多数にのぼり、大盛会でした。

大会は開会セレモニーなどのあと、山折哲雄・前国際日本文化センター所長の基調講演、シ

ンポジウム、分科会などで構成され、それぞれにこれからのユネスコ運動のあり方を模索するにふさわしい有意義な内容のお話や議論がありました。とりわけ、基調講演やシンポジウムにおいては、文明の共存、平和と共生に焦点があてられました。そこでは、ユネスコ運動の中で、日本の文化、言葉、思想を国際化（普遍化）するための方法を学んでいく時が来ている、自分たちの文化や感性をしっかり理解して大事にしないと、他の人との共存、共生はできない、そして、否定や拒絶をしたらず国の価値観で測るのではなく、謙虚に知ることが大切である、といった示唆に富む指摘があつたことが印象的でした。

分科会では、寺子屋運動、平和と国際理解、青年活動、世界遺産活動の四つのテーマで各地の事例発表と熱心な議論が重ねられました。

くわしい報告は日ユ協連機関紙「ユネスコ」七・九月号に掲載してありますのでご覧ください。なお、会議の前に、世界遺産活動に関する情報交換があり、当協会から、亀井常任理事が、原爆ドーム緩衝地帯における高層マンション建設にかかわる問題を報告し、全国的課題とするよう要請いたしました。

（常任理事・古田碩永）

ドーム景観の実態調査を 世界遺産センターに要請

原爆ドーム緩衝地帯に建築中の高層マンションの工事はその後も規模縮小などもなく経過しています。今後、広島市に対し建築物の高さ規制等を含む早期条例施行の動向を見守ります。

景観保持の署名二万人余を集め、吉永小百合、新藤兼人、早坂暁氏らに働きかけ、支持表明を受けて、現在活動中。

(常任理事・亀井章)

泰緬鉄道の世界遺産化運動を支援

一方、ユネスコ世界遺産センター(パリ)のフランシエスコ・パンダリン所長が、十一月初旬、奈良市平城京跡の道路建設計画の調査のため来日されるのを機に、ドーム景観の実態調査を要請する文書を「景観を守る会」(坪井直・金子一士代表)と当協会の連名で日本ICOMOS国内委員会を通じて発送しました。※「景観を守る会」は

旧日本軍が多大な犠牲を強いて建設した泰緬鉄道(戦場に懸ける橋)でお馴染み)のあるタイ・カンチャナブリー市のプラシド・オパティバコン市長が当時通訳であった永瀬隆氏(倉敷市在住)と共に八月四日、

広島市長を訪問。原爆ドームと同じ負の世界遺産として登録すべく広島市の支援を要請された(市長は承諾)際に、当協会北川会長、高橋副会長もカンチャナブリー市長に会い、支援要請を受け、会長も協力の意向を表明し、今後、要請に応じて支援することになりました。

世界遺産からのSOS 〔写真・映像〕展

〔会期〕十月十三日(金)～二十二日(日)

〔会場〕そごう広島店

〔主催〕(社)日本ユネスコ協会連盟、NHK広島放送局、NHKちゅうごくソフトプラ

ン、中国新聞社

〔後援〕広島県ユネスコ連絡協議会、広島ユネスコ協会ほか

アジアを中心に幅広く活躍するフォトジャーナリストたちや専門家からの貴重な報道写真とNHKハイビジョン映像により構成されるこの展覧会は、これらの危機遺産を救い未来の世代へ伝えるために、「私たちに何ができるのか」、「何をしなければならぬのか」を訴えかけるために開催いたします。

本展は特に、紛争により失われたアフガニスタンの「バミヤン遺跡」、大地震で脆くも崩れ去ったイランの「アレゲ・バム城砦」、急激な都市化が伝統文化に彩られた都市の崩壊を招きつつあるネパールの「カトマンズ」、社会構造の変化が伝統的な稲作文化に危機をもたらしているフィリピンの「コルディリエーラの棚田」や、二〇〇四に危機遺産リストからは脱したとはいえ、急激な観光開発などによって新たな危機を迎えているカンボジアの「アンコール遺

跡」などを中心に取りあげ、アジアの危機遺産の現状を訴えます。

※入場券は、当協会事務局へ。

ありし日のバミヤン西大仏



(リーフレットより)

今こそ心の中に 平和の砦を

韓国UNESCO大邱協会
会長 徐 千濟

広島ユネスコ協会が、平和の鐘を撞く行事を催されるにあたり、メッセージを申し上げます。

UNESCO大邱協会は、結縁同士としてかねて貴協会の着実なる平和活動に対し、心から尊敬の意を表してまいりました。

被爆六十一年、人々は戦争なき平和に向けて、ひたすら願い、叫び、知能を高度に活かし、有事に備えてきました。

しかし、世界の至る所で残酷極まるテロが相次ぎ、罪なき多く

の犠牲者を出しています。その上、核兵器廃絶を願う世界の人々の切なる熱望に背き、核戦争の可能性と核兵器使用の危険性は高まりつつあります。人々は誰も住みよい平和の村を夢見ています。しかし、現実是不幸にして逆戻りの道を辿っているように見えます。

今こそ核を保有している国々の指導者たちが心の中に平和の砦を築き上げ、戦争なき暮らしよい社会を明日の子どもたちに譲り渡すことだと思います。

最後に、貴協会と当協会の友好親善が一層深まるとともに、契りの絆が固まることを響きわたる鐘の音に託して、ご挨拶の言葉にさせていただきます。

二〇〇六年八月十五日

はじめてのハンゲル

青少年の活動拠点である広島市青少年センターとの共催事業「はじめてのハンゲル」を開催します。

これまで青少年から人気のあった講座ですが、今回も韓国語通訳 朴 英珍さんをお迎えして次のように開講します。

対象 / 18歳から30歳までの青少年 (高校生を含む)

募集人員 / 30人 (先着順)

会場 / 広島市青少年センター

期間 / 11月9日(木)～12月14日(木)
18:30～20:30 (全6回)

内容 / 自己紹介、文字と発音の仕組み・練習、簡単なあいさつ、日常会話、まとめ。グルメのつどいなど

参加費 / 2,500円 (グルメは別)

問合・申込 / 青少年センター

電話 / 082-228-0447

国際交流入門

あせろべ2006

今年で二十三回目を迎えるあせろべ2006が来る十月十五日(日)午前十時から中央公園芝生広場で開催されます。

今回のテーマは「FUSION(融合)」で、約五十団体が参加します。

今年もステージでは、楽器演奏や舞踊、歌などが披露され、ブースでは、世界の国や地球の文化が紹介されます。その他にも芝生広場ではアウトドアゲームも予定されています。

当協会ではブースや広場を利用して、日用品や木の葉などを使った創作教室、わらざうり、

日誌

△5月▽

8～12日／韓国UNESCO大邱協会訪問団来日(広島・宮島・山陰)

20日／第百二十四回ユネスコサロン「新しい経験」前広島市留学生会館館長 荒木史子さん(市民交流プラザ)

△6月▽

3～4日／日本ユネスコ運動全国大会(岩手大会) in 花巻

8日／国際交流・協力の日第一回実行委員会(国際会議場) 山本事務局長

竹馬、竹トシボ、ミニ颯、しゃぼん玉などの体験コーナーを設け、テントのコーナーを使って世界遺産と寺子屋運動のパネル写真を展示し、広くユネスコ活動を紹介することになっています。

また、英会話教室を受講し、後にサークルとして活動している青年が外国人と会話を通して交流していきます。

当日は是非、皆さん足を運んでみてください。

国際交流・協力の日

(財)広島平和文化センターなどを中心に多くの関係市民団体や機関が企画して、二十三の学びと体験の場を設定し「国際交流・協力の日」が開催されます。

今年のテーマは「見つめよう地球 学ぼう世界―世界の人々の笑顔と子供たちの未来のために―」です。

当協会は、「紹介展示コーナー」への参加と広島市内の青少年(四団体)が取り組んでいる国際理解、国際交流・協力などの実践活動の報告をする「青少年による国際交流・協力活動レポート」(発表会)の運営を担当することになっています。

この外、原爆ドームが世界遺産に登録されて十二月七日で十周年となります。これを記念し、平和文化センター職員西山さんのご協力により「世界遺産原爆ドーム展」を行う予定です。

と き／十一月十九日(日) 午前十時～午後四時
ところ／広島国際会議場・周辺

20日／二〇〇六年度総会(市民交流プラザ)

30日／世界遺産「原爆ドームを守る会」との協議(中区)

12日／平和シンポジウム「ヒロシマの継承・明日への伝言」(平和記念資料館) コーディネーター・斉藤忠臣さん(平和文化センター理事長) ほか三名

コ国内委員、末広指導主事、山本事務局長

15日／第百二十五回ユネスコサロン「世界遺産との出会い」わたしの見たこと感じたこと」元中国新聞社 映像制作部長 沖原貞男さん(市民交流プラザ)

21日／世界遺産登録十周年記念行事協議(廿日市市役所)

31日／ユネスコ活動奨励賞募集要項検討会議(市民交流プラザ) 教育部会・事務局

2～5日／第五十二回全国高校ユネスコ研究大会・沖縄大会(糸満市) 広島附属高校八名、山陽女学園高等部二名、藤原理事ほか
4日／泰緬鉄道世界遺産登録支援要請(広島市役所) タイのカンチャナブリー市市長、北川会長・高橋副会長・亀井常任理事
15日／平和の鐘を鳴らそう(平和記念公園) 北川会長・光田副会長・広島附属高校生ほか百五十人

15日／世界遺産原爆ドームバツファーズゾーンを守る集い(原爆ドーム前) 亀井平和部会長・世界遺産担当ほか二十名

31日／ユネスコ活動奨励賞募集要項発送準備(市民交流プラザ) 教育部会・事務局

3日／世界遺産登録十周年記念行事協議(市民交流プラザ)
7日／国際交流・協力の日第二回実行委員会(国際会議場) 山本事務局長

9日／あせろべ実行委員会(国際会議場) 山本事務局長
11日／日本教育公務員弘済会より奨励金給付通知受領

12日／静岡市清水ユネスコ協会世界遺産研修・交流会(原爆ドーム・国際会議場) 竹沢副会長、亀井・藤井孝行常任理事・山本事務局長
16日／第百二十六回ユネスコサロン「ストップ・ザ・広島県の人口減少」年金生活者六万人移住計画」広島県交流・定住促進協議会副会長 森信秀樹さん。原爆ドームライトアップ戯曲HIROSHIMA A上映会(市民交流プラザ)
16日／理事会(市民交流プラザ) 世界遺産登録十周年記念事業ほか

18～20日／「世界遺産原爆ドーム・厳島神社写真撮影」ユネスコ事務局委託カメラマン Mr. Jeff Steven、藤井常任理事、山本事務局長